

青い空の雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース
2016年2月発行
発行者 長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰
〒380-0928
長野市若里7-1-7
長野県社会福祉総合センター5F
TEL 026-227-6811
Fax 026-227-6836

平成28年総会開催報告

平成28年5月15日
長野県社会福祉総合センター



中村彰 会長挨拶

今年度も従前同様に活動をしていきますが、教育・就労さらに一番関心のあるところの高齢知的障がい者の人生の末路に関し県としてどのように考えているのか、知事懇談会の折に質問をしました。知事公務にて副知事との懇談でしたが担当部局の通り一片の答えでした。一方、国の社会福祉審議会こちらの障がい者専門部会では細かい部分まで話が詰められています。国も県もお金が無くなってきている各地方公共団体みんなそうです。そんな中でこれから、どんなふうになって

いくのか皆さま方の日々の生活と共に色々な施策に、今まで以上に目を向けて頂きたいと思っております。何でもかんでも「お願い、お願い」というつもりはありません。今の施策での調整を考慮した提言型の申請も含めて、皆さま方も地域の行政に対して接していただき、また他の障がい者団体とも同じ思いを持ち、色々な動きをしていただきたいと思います。が、障がい者団体だけがまとまって行動する、そんな時代でもないのかなとも思っています。地域の人達や健常の方たちとも交わり色々なムーブメントを起こして頂ければありがたいです。またそのようにしていかないと障がい者支援の理解は得られないではないかと思っています。

今朝の朝日デジタルのネットニュースに今まで努力義務だった成長過程のカルテを義務化するとありました。皆様もご経験があると思いますが、入園、入学、進学の度に誕生からの記録をその都度書かされる煩わしさがありました。長野県知的障がい者福祉協会でも一昨年あたりから一生涯使える記録簿を作ろうと、育成会でも協力して取り組んできました。ただ、こういった記入したものがそれだけ一人歩きする懸念もあるわけで物事は表裏一体、一歩前に行き半歩下がるといった流れの中で良い取り組みになるよう期待するところです。

総会での主な意見

- 育成会の会員の高齢化で毎年会員数が減っている、今の若い親御さんたちは育成会に入らなくても何にも困ることが無い、我々が運動によって築き上げた多くの障がい者サービスを、子どもが誕生したその時から受けられる。このままでは育成会の会そのものの存続も難しくなってくる。県育成会としてどう取り組むのか。⇒平成28年度中に会員獲得のための検討委員会を立ち上げ答申を仰ぎ行動を起こしていく。
- 育成会の運営資金として1億円基金の利息もあてにならなくなっている、とはいえ会員からの会費も増額できない太陽光発電事業を始めてはどうか。⇒基金は社福法人への施設運営貸付金として事業展開をする目的にかなった基金利用を基金管理委員会のもとで適正に運用を図っていく。

緊急告知

米国・オーランド大会 デイズニールワールドリゾート滞在 参加者募集

2016年10月25日(火)～31日(月)7日間 詳しくは事務局へ！！

第3回全国大会・第50回関東ブロック大会特集

平成28年7月7日～10日

会場 神奈川県民ホール・ワークピア横浜

長野からの参加者・・・63名

例年になく7月の開催となりました。全国から大勢の仲間が一堂に会しそれぞれの学びを得る機会となっています。とは言え大都市横浜市が会場、有数の観光名所巡りも楽しみの一つです。

親子で参加での「あるある」のハプニング？も旅の醍醐味。

そんなひとコマをご紹介します。

長野市からはバス2台で・・・
自前のバスガイドで旅費節約
のチャレンジクラブのご一行



松本周辺地域の皆様
もバスで中信圏域を
網羅し会員を拾っ
て・・・

朝早くから支度をし
目指すは横浜
神奈川県民ホール
「分科会」
学びを遮る
「睡魔かな」

東信地区の御一行は新幹線⇒JR
線⇒みなとみらい線で「日本大通
り駅」下車・・・なのに「みなとみ
らい駅」で下車してしまい・・・

他の地域からも色々な交通手段
でご参加されました♪
みなさまお疲れさまでした。

さすが！横浜。分科会会場からの眺めは美しい。



にこやかに写真に納まった三人ですが・・・

参加した分科会の終了時間が合わずに、早く終わった奈央子さんと美穂さん。待ち場所で、つながらない携帯電話を握りしめて心細い思いをしていました。一方、着信に気づかないでいた母とも美さんは分科会を途中退室して眺めの良い山下公園でのひと時を満喫していたのでした。

↑ 全国大会に参加された上原とも美・奈央子母娘と酒井美穂さん（長野市）



↑ 会場から見える山下公園



サルサガムテープの演奏会に会場は大盛り上がり♪
＜元NHK歌のお兄さん「かしわ哲」氏が結成。
名前の由来はバケツにガムテープを貼った手作り太鼓でのリズムセッションがきっかけ。＞

◎成人後の人生を自律的に暮らす～制度を利用する際の意思決定支援の在り方～

基調講演 大塚 晃 氏

「本人の意思」を探り決定するための支援とは、家族はもとより周囲の支援者の支援能力が重要となる。本人の楽しみ、生きがいを支援する。親は自分だったらこんなグループホームに入りたいなあ・・・と思うホームを探す、または作る。

誕生からの成長の歩みに沿った、生きてきたストーリーを基にこれからの支援につなげることが、当たり前だけどとっても大事なことだと思った。

基調講演をされた上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授大塚晃先生の息子さんに障がいがあるようで、グループホームを出たことなどご自身のお子さんの事をかぶせてお話しされたことが印象的だった。

報告者 長野市 Mさん

◎インクルーシブな社会で育つ～権利条約から読み解く教育・社会参加～

シンポジウムコーディネーター

又村 あおい 氏

大会開催地、神奈川県のインクルーシブ教育の推進に関し平塚市で福祉行政に関わり今や手をつなぐ育成会の看板となった又村あおいさんがコーディネーター、青森県学校教育課特別支援教育推進室指導主事「菊池一文氏」神奈川県教育局の指導主事「田中みか氏」就労継続 A 事業所全国協議会代表「久保寺一夫氏」千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会会長「藤尾健二氏」らによるシンポジウムでした。

インクルーシブ教育の実践が就労の場面で生き、活かされるためには、教師による教え込みだけではなく本人なりの学びへの意味・価値を重視する教育の重要性を捉えることが大切である、これらの観点から神奈川県では、できるだけ地域の学校で学ぶ仕組みづくり・できるだけ通常の学級で学ぶ仕組みづくり・できるだけ高校で学ぶ仕組みづくりを重点的な取り組みとしている、この点は全国的に広めたい取り組み内容です。

特別支援学校のある授業から子供たちのアンケートで言われたくない言葉が紹介されました。「死ぬ、くず」「バカ・アホおまえ死ぬ」「デブきらい」「おかしい」「今集中しているのにごちゃごちゃ言われる」これには考えさせられました。

文責 塚田



富山県舟橋村手をつなぐ育成会
会員とのミニ交流会

日本一小さい村・・・
富山県舟橋村の呼称です。
五月三十日舟橋村の育成会の皆さんが訪ねてきました。
開通した北陸新幹線に乗って長野市観光を企画され「せっかくだから交流を」との申し出を受け、同規模の長野県の麻績村育成会・前事務局長刈間氏と中村会長・宮本事務局次長・事務局長が、ご本人とご家族、支援員さん総勢十名の御一行と積もる話をしました。
少子高齢の現状、増えない会員、若い人たちへどうやって会をアピールしたらいいのかわからない悩みを共有しながらも「育成会」としてつながっている親近感にあふれたひと時でした。
ここにです

